

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 24 年 5 月 18 日現在

機関番号：13101

研究種目：基盤研究(A)

研究期間：2008～2011

課題番号：20242019

研究課題名(和文) 出土資料群のデータベース化とそれを用いた中国古代史上の基層社会に関する多面的分析

研究課題名(英文) A multiple study of the basic society in ancient China through databases of excavated relics

研究代表者

関尾 史郎 (SEKIO SHIRO)

新潟大学・人文社会・教育科学系・教授

研究者番号：70179331

研究成果の概要(和文): 本研究では先ず、簡牘、鎮墓瓶、および墓葬の磚画・壁画といった三つの出土資料群のデータベースを作成・補充した。次いでそれを有効に用いながら、2～3世紀の中国における地域社会・基層社会について、多面的な分析を行った。簡牘の分析からは、戸を単位とした秩序が形成過程にあったことが、また鎮墓瓶と磚画・壁画の分析からは、おおよそ郡を単位として、葬送文化や信仰のありように、顕著な違いがあったことなどが明らかになった。

研究成果の概要(英文): At first we make and supplement databases of wooden manuscripts, entombed bottles, and brick & wall paintings of tombs. And we study the local and basic society in ancient China from 2nd for 3rd century multiplely. We can understand that an order of *Hu*(戸) was in process of constitution through the database of wooden manuscripts, and burial type and conviction differed notably every district named *Jun*(郡) through databases of entombed bottles and brick & wall paintings of tombs.

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2008年度	13,100,000	3,930,000	17,030,000
2009年度	8,000,000	2,400,000	10,400,000
2010年度	6,500,000	1,950,000	8,450,000
2011年度	2,700,000	810,000	3,510,000
年度			
総計	30,300,000	9,090,000	39,390,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：出土資料群，簡牘学，図像学

1. 研究開始当初の背景

(1) 中国史上、2～3世紀を中心とした漢魏交替期は、一つの画期として重視されてきた。しかし、その変動の具体的な内実については、編纂史料から推測を逞しくするか、あるいは政治過程や政治制度の変質をもって社会の変動を説明するというのが現状であった。

(2) それに対して本研究は、基層社会の変動を、近年中国の各地で出土する一次資料の分析を通じて解明し、このような研究の水準と現状を克服することを意図した。

2. 研究の目的

(1) 本研究は、一次資料を分析の手がかりとしながら、2～3世紀を中心とした時期の基層

社会の構造と変動を多角的にあとづけることを目的とした。

(2) 一次資料に対する関心は近年、少しずつ高まりを見せてはいるが、その分析方法については、なお開発途上にあると言ってよい段階にある。本研究は、「資料群」としてこれを把握し、そのデータベースを積極的に活用するという、資料学の点でも、新しい課題を掲げた。

3. 研究の方法

(1) 「資料群」と呼ぶ一次資料として長沙出土の簡牘、甘肅出土の鎮墓瓶、甘肅・新疆出土の磚画・壁画を取り上げ、それぞれのデータベースをそれぞれに応じたメディアにより作成ないしは補充した。

(2) これらの「資料群」については、可能な限り、出土地域に赴き、実見調査を行い、正確を期した。

(3) これらデータベースや資料集などの分析により、郡県レベルの地域社会から、村落（郷・里、丘・塢）・家族など基層社会の構造をはじめ、それらと公権力の関係、さらには交通・民族・生業・信仰といった諸問題の解明を進めた。

4. 研究成果

(1) 調査結果と研究成果については、年次報告書を6冊（『長沙呉簡研究報告』、『西北出土文献研究』各3冊。報告書に収載されたレポートは、下記の「雑誌論文」では省略した）、国際ワークショップを4回（2009年度・2010年度各1回、2011年度2回。うち1回は他のプロジェクトと共催）開催し、内外の研究者に公開した。また下記に掲げた図書の多くは、一般向けに執筆されたものである。

(2) 長沙出土の簡牘、さらには南京や郴州出土の同時代の簡牘もあわせ、そのデータベースなどを活用しながら、家族単位まで及ぶ基層社会の構造、その社会と関係を取り結ぶ地域の公権力との関係の解明に努めた。

長沙呉簡によると、三国・呉の時期、当地では多様な名籍が作成され、戸口の把握が徹底して行われていたことがわかる。戸主の名称はまだなく、「戸人」の語が用いられ、かつ口筭が賦課されている点に前代との連続性が認められるが、一方で戸が諸税の単位となっていたこともうかがえる。

吏民は、50戸を基礎にした里に編成されたことが名籍からわかるが、その一方、丘に居住していた。同じようなことは、後漢時代の長沙や、同時代の郴州についても可能性が

考えられる。敦煌など西北辺境の磚画や戸籍に出てくる塢と同じように、丘が日常生活空間だったとすれば、郷里制、とくに里が形骸化していたとも考えられる。

吏民の戸は、田土に関するものだけでも税米・租米・限米など多種の税を賦課され、それ以外に銭・布・皮など多様な税物の納入義務を負っていたことが竹簡からわかる。またおびただしい数に上る竹簡の存在とその統一された書式は、諸税の賦課・納入に係わる文書行政システムが執行されていたことを示しており、その面に関しては、公権力が地域社会を確実に把握していたことを示している。

納入された諸税は、邸閣郎中に率いられた倉・庫に保管されたが、その出納についても詳細な記録簡が逐一作成され、厳重な管理下に置かれていたと考えられる。

以上の公文書に混じって出土した名刺簡は、後漢以降、魏晋時代に普及したと考えられ、各地の墓葬からも出土しているが、本来は仕官などを目的として作成されたものである。これは、後漢から活発化した建碑の動きとともに、新しい社会関係の創出という事態と関連づけて考える必要がある。

以上の諸点は、以下の「雑誌論文」で言及され、また解明されたものだが、データベースがこれらの検討に有益であった。これにより各史料（主として竹簡）の書式や内容を比較検討することが可能になったのである。長沙出土の簡牘はなお全貌が明らかになっておらず、かかる作業工程は今後も継続されなければならない。

(3) 鎮墓瓶と磚画・壁画の出土状況をトータルで把握することによって、地域社会の葬送文化については信仰のありよう、そして文化の伝播＝人の移動を解明すべく努めた。

甘肅省の河西地域では、魏晋時代の古墓群が各地で多数発見されており、その分布は県の所在地を超えている。このことは、小規模な村落がオアシス沿いに点在していた可能性を示唆する。また磚画墓や壁画墓は、当時交通の要衝であったと思われる地点に集中する傾向がある。

河西地域では、おおよそ魏晋時代の郡を単位として鎮墓瓶と磚画・壁画の有無や傾向に違いが認められる。

河西地域のうち、旧酒泉郡域と同様の葬送文化は、新疆の吐魯番に、旧敦煌郡域と同様のそれは、新疆の庫車や尼雅に確認される。これは、河西地域からの人の移動の経路や到達地の問題に手がかりを提供する。

磚画や壁画に描かれた多数の非漢族は、地域社会における漢族と非漢族の間に交流があったことを物語るが、それは単に前者が後者を役使するというのみならず、より緊密

でフラットな関係が想定される。

鎮墓瓶と磚画・壁画(のモチーフ)は、前後して中原地域から河西地域に伝播したと思われるが、経路を異にしていた可能性が高く、当時、他地域との交流が複数の交通路によって行われていたと考えられる。

以上の諸点は、「図書」・ をはじめ、以下の「雑誌論文」でも論じたが、そのほとんどは、内外において最初に論じたものである。今後、随葬衣物疏など、これら以外の葬送文化にも視野を拡大するとともに、村落遺址と思われる城址の調査が必要になる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計16件)

- 1 關尾史郎，長沙吳簡中の賦税納入簡について 作成者の問題を中心に ，資料学研究，査読有，第9号，2012，横1-11
- 2 伊藤敏雄，長沙吳簡中の邸閣・倉吏とその関係，歴史研究，査読無，第49号，2012，21-45
- 3 關尾史郎，敦煌新出鎮墓瓶初探 「中国西北地域出土鎮墓文集(稿)」補遺(続) ，西北出土文献研究，査読無，第9号，2011，61-85
- 4 關尾史郎，“名刺簡”三論，吳簡研究，依頼有，第3輯，2011，167-175
- 5 阿部幸信，長沙走馬樓吳簡所見の“調” 以出納記録的検討を中心，吳簡研究，依頼有，第3輯，2011，226-251
- 6 高橋秀樹，胡人像尖帽の起源 丁家閘5号墓壁画胡人像解析のために ，新潟史学，査読有，第65号，2011，25-46
- 7 高橋秀樹，酒泉丁家閘5号墓壁画胡人像に見られる氍と「三角帽」，西北出土文献研究，査読無，第9号，2011，39-60
- 8 鶴田一雄，長沙東牌樓後漢簡牘に関する一考察(1) 書叢 査読無 第24号 2011，38-42
- 9 町田隆吉，甘肅省高台県出土の冥婚書をめぐって，西北出土文献研究，査読無，第9号，2011，5-21
- 10 關尾史郎，南京出土の名刺簡について 「魏晉「名刺簡」ノート」補遺 ，資料学研究，査読有，第7号，2010，横58-64
- 11 伊藤敏雄，長沙吳簡における米納入状況再考，歴史研究，査読無，第47号，2010，69-97
- 12 小林 聡，朝服制度の行方 曹魏～五胡東晉時代における出土文物を中心として ，埼玉大学紀要教育学部(人文社会科学) 査読無 第59巻第1号 2010，69-84
- 13 小林 聡，北朝時代における公的服飾制

度の諸相 朝服制度を中心に ，大正大学東洋史論集，査読無，第3号，2010，25-56

- 14 鶴田一雄，近年出土簡牘中の尺牘に関する一考察 書叢 査読無 第23号 2010，30-33
- 15 町田隆吉，4～5世紀吐魯番出土古墓壁画・紙画再論，西北出土文献研究，査読無，第8号，2010，21-40
- 16 關尾史郎，魏晉「名刺簡」ノート 長沙吳簡研究のために ，新潟史学，査読有，第60号，2008，31-41

[学会発表](計28件)

- 1 阿部幸信，關於長沙吳簡所見“市布”，「日本吳簡研究的課題と展望」學術報告会，2012年3月10日，中国・武漢大学歴史学院
- 2 町田隆吉，甘肅省高台県出土の漢語文書の基礎的整理 簡牘を中心に ，国際ワークショップ「出土資料からみた魏晉時代の河西」，2012年2月20日，桜美林大学四谷キャンパス
- 3 渡部 武，画像資料から見た河西地方の犁のタイプと犁耕技術，同上
- 4 伊藤敏雄・永田拓治，郴州晉簡初探 上計及び西晉武帝郡国上計史勅戒等との関係を中心に ，国際ワークショップ「湖南出土簡牘をめぐる諸問題」，2012年2月19日，立正大学大崎キャンパス
- 5 安部聡一郎，中国・韓国出土木簡の比較の可能性 木簡の作成技法に注目して ，北陸史学会大会，2011年11月27日，石川県立歴史博物館
- 6 關尾史郎，「最後の簡牘群」考 長沙吳簡を例として ，愛媛大学「資料学」研究会大会，2011年11月26日，愛媛大学城北キャンパス
- 7 關尾史郎，木と紙のあいだ，学習院大学東洋文化研究所「中国古代の文字と記録媒体」講演会，2011年10月20日，学習院大学
- 8 伊藤敏雄，長沙吳簡中の朱痕と朱筆，中国魏晉南北朝史学会年会暨国際學術研討会，2011年10月19～20日，中国・(太原)天瑞商務酒店
- 9 伊藤敏雄・永田拓治，郴州晉簡初探 以郴州晉簡与上計及西晉武帝勅戒之關係為中心的一個考察，唐長孺先生百年誕辰紀念国際學術研討会暨中国唐史学会年会，2011年7月4～6日，中国・武漢大学歴史学院
- 10 阿部幸信，長沙走馬樓吳簡所見の“調” 以出納記録的検討を中心，復旦大学人文基金學術交流講座・講演，2011年6月13日，中国・復旦大学光華樓
- 11 阿部幸信，長沙走馬樓吳簡にみえる「調」

- をめぐって 出納記録の検討を中心に
，瀬戸内魏晋南北朝史研究会大会，
2011年3月27日，神戸国際会館
- 12 伊藤敏雄，長沙呉簡中の邸閣・倉吏，中日長沙呉簡學術研討会，2011年3月15日，中国・(長沙)君逸康年大酒店
- 13 荻美津夫，河西地域の磚画・壁画にみられる魏晋南北朝時代の樂器，国際ワークショップ「磚画・壁画の環東アジア」，2011年3月5日，新潟大学五十嵐キャンパス
- 14 高橋秀樹，中国古代墓壁画に見られる西方的要素について 河西地域を中心として，同上
- 15 安部聡一郎，長沙走馬楼三国呉簡中所見「戸品出錢」簡考 編制帳簿的過程与「出錢」的性質，四分溪簡讀書会，2011年1月8日，台湾・中央研究院歷史語言研究所
- 16 關尾史郎，甘肅省高台県の遺跡群と主要出土文物について，内陸アジア出土古文獻研究会例会，2010年12月18日，明治大学駿河台校舎
- 17 小林 聡，五胡・北朝期における北族的服制の展開 河西・朝陽・大同の出土文物を主たる題材として，九州史学会大会，2010年12月12日，九州大学
- 18 安部聡一郎，走馬楼呉簡中所見「戸品出錢」簡にみる帳簿の作成と賦の徴収，国立台湾大学歴史学系古代史讀書会，2010年11月20日，台湾・国立台湾大学
- 19 關尾史郎，在高台県域内的古墓群与古代郡県制，高台魏晋墓与河西历史文化国際學術研討会，2010年8月13～15日，中国・高台賓館
- 20 岩本篤志，北朝隋唐時期的貴石印章和粟特人，同上
- 21 荻美津夫，從魏晋五胡時代河西地区的磚画壁画中看到的音樂描写，同上
- 22 小林 聡，在中国古代礼制，服制史上河西出土文物的特点 以礼制構造的概況和在河西地区的服制傳播為中心，同上
- 23 町田隆吉，甘肅省高台県出土十六国漢語文書編年，同上
- 24 關尾史郎，魏晋画像磚の世界 「共生」と「地域」を考える，愛媛大学法文学部人文学科主催學術交流講演会，2010年7月19日，愛媛大学城北キャンパス
- 25 關尾史郎，魏晋簡牘研究への一視点，国際ワークショップ「新出魏晋簡牘をめぐる諸問題」，2009年9月13日，立正大学大崎キャンパス
- 26 伊藤敏雄，魏晋簡牘の調査と課題，同上
- 27 安部聡一郎，長沙走馬楼三国呉簡にみえる戸品出錢簡について，愛媛大学「資料学」研究会大会，2009年9月12日，愛媛大学城北キャンパス

- 28 關尾史郎，東アジアにおける書写材料と文字の西漸をめぐって 高昌・楼蘭・于闐を中心として，韓国・東北アジア歴史財団シンポジウム「古代文字資料よりみた東アジアの文化交流と疏通」，2009年6月10～11日，韓国・国立古宮博物館

〔図書〕(計7件)

- 1 關尾史郎他，創風社出版，人文学の現在，2012，90-109
- 2 關尾史郎，高志書院・新大人文選書7，もうひとつの敦煌—鎮墓瓶と画像磚の世界—，2011，153+11
- 3 關尾史郎他，，，2011，189-205
- 4 安部聡一郎他，汲古書院，東アジア出土資料と情報伝達，2011，77-99
- 5 佐藤貴保他，勉誠出版，オアシス地域の歴史と環境 黒河が語るヒトと自然の2000年，2011，63-105,161-171
- 6 渡部 武他，臨川書店，ユーラシア農耕史・第5巻，2010，83-124
- 7 關尾史郎他，岩波書店，世界史史料・第3巻，2009，116-118

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.human.niigata-u.ac.jp/~ssekio>
(改修中)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

關尾 史郎 (SEKIO SHIRO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：70179331

(2) 研究分担者

町田 隆吉 (MACHIDA TAKAYOSHI)
桜美林大学・リベラルアーツ学群・教授
研究者番号：50316923

伊藤 敏雄 (ITO TOSHIO)
大阪教育大学・教育学部・教授
研究者番号：00184672

荻 美津夫 (OGI MITSUO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：80115013

鶴田 一雄 (TSURUTA KAZUO)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：40180062

福原 啓郎 (FUKUHARA AKIO)
京都外国語大学・外国語学部・教授
研究者番号：60221537

小林 聡 (KOBAYASHI SATOSHI)
埼玉大学・教育学部・教授

研究者番号：40234819
白石 典之 (SHIRAIISHI NORIYUKI)
新潟大学・超域学術院・教授
研究者番号：40262422
佐川 英治 (SAGAWA EIJI)
東京大学・大学院人文社会系研究科・准教授
研究者番号：00343286
小嶋 茂稔 (KOJIMA SHIGETOSHI)
東京学芸大学・教育学部・准教授
研究者番号：20312720
高橋 秀樹 (TAKAHASHI HIDEKI)
新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
研究者番号：80236306
岩本 篤志 (IWAMOTO ATSUSHI)
新潟大学・人文社会・教育科学系・助教
研究者番号：80324002
阿部 幸信 (ABE YUKINOBU)
中央大学・文学部・教授
研究者番号：60346731
安部 聡一郎 (ABE SOICHIRO)
金沢大学・歴史言語文化学系准教授
研究者番号：10345647
中林 隆之 (NAKABAYASHI
TAKAYUKI)
新潟大学・人文社会・教育科学系・准教授
研究者番号：30382021
高村 武幸 (TAKAMURA TAKEYUKI)
三重大学・人文学部・准教授
研究者番号：90571547
佐藤 貴保 (SATO TAKAYASU)
新潟大学・超域学術院・准教授
研究者番号：40403026

(3)連携研究者

窪添 慶文 (KUBOZOE YOSHIHUMI)
立正大学・文学部・教授
研究者番号：40011382
渡部 武 (WATABE TAKESHI)
東海大学・文学部・特任教授
研究者番号：70167188